

日本の石橋を守る会 会長 橋本 幸一 事務局 〒869-4302 熊本県八代市東陽町北 98-2 八代市東陽石匠館内
TEL.0965-65-2700 メール koho@ishibashi-mamorukai.jp ホームページ <https://www.ishibashi-mamorukai.jp>



丸竹橋（1935年架設）でのガイドの様子
路面下の壁石から出た貫石（ぬきいし）と
谷積みの壁石が特徴的な石橋
写真提供／山下 豊



里山自然学校こまつ滝ヶ原 HP

石川の石橋群は無事

1月の能登半島地震で石川県小松市は最大震度5強を記録。同市には5橋の滝ヶ原アーチ石橋群や石切り場跡が残り、市指定文化財となっています。現地で石文化探索ガイドツアーを主催する「里山自然学校こまつ滝ヶ原」の代表・山下豊氏に問い合わせると、アーチ石橋群は無事とのこと。「4月からガイドツアーを再開しますのでご来訪を」と山下氏。ガイドの申し込みは左のQRコードから可能です。（広報部）

「福島の石橋群」が土木学会推奨土木遺産に

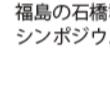
福島県には9橋の石橋が現存しています。それらの歴史的・技術的価値を確かなものにしようと2022年1月に「福島の石橋群保存会」（丹野義明会長）が結成され、9橋は「福島の石橋群」として公益社団法人土木学会の推奨土木遺産に認定（同年9月）されました。昨年11月には2日間のシンポジウムが開催され、現地見学会や講演会が行われました。

シンポジウムのタイトルは「石橋群が紡ぐ歴史・ひと・地域」。講演会では福島県内の石橋などの紹介、日本大学准教授の知野泰明氏による「近代土木遺産の技術的価値及び歴史的価値について」と題した基調講演があり、その後に7人によるパネルディスカッションが行われ、石橋群



松川橋（福島市、1885年架設）での現地見学会
写真提供／福島の石橋群保存会

を後世に残していくための課題や石橋群を地域づくりに役立てていく方法などについて、意見が交わされました。講演会の動画は右のQRコードから。（広報部）



福島の石橋群
シンポジウム

洗玉眼鏡橋 架設130年記念イベント開催

福岡県八女市の通称「ひふみよ橋」（洗玉橋・寄口橋・大瀬橋・宮ヶ原橋）のうち、1893（明治26）年創建の洗玉橋（市指定有形文化財）が昨年、架設130年を迎えました。八女上陽の「ひふみよ橋」を



洗玉橋の橋上で記念のエコバルーンリリース
写真提供／中村まさあき
2023年10月21日

守る会（久間一正会長）は10月21日、記念の式典を開催。本会の橋本幸一会長が祝いのあいさつをし、同会顧問の馬場紘一氏が洗玉橋を案内。その後は上陽公民館に会場を移し、八代市東陽石匠館館長の上塙寿朗氏による「洗玉橋と橋本勘五郎」と題した記念講演が行われました。

同橋は肥後種山石工の橋本勘五郎が棟梁を務め、要石には国宝・通潤橋（熊本）の兄弟橋を意味する「矢部吹上ヶ兄弟橋」と刻銘されています。そのほか昨年は、大正期に架設された寄口橋・大瀬橋・宮ヶ原橋が共に国登録有形文化財となつたことも紹介されました。（広報部）



ほたると石橋の館

絵本「国宝 通潤橋」発行

昨年、国宝となって来訪者が増加している熊本県山都町の通潤橋。今年2月には九州中央自動車道の「山都通潤橋IC」の供用が開始され、ICの出入口そばに道の駅通潤橋ができました。

訪日客の増加も見込まれる中、本会会員の下田美鈴氏が代表を務める教育事業



国道218号沿い山都通潤橋ICそばの道の駅・通潤橋
写真提供／中村まさあき

会社「やまと」は、地元の先人の偉業を伝える2012年発行の絵本（通潤橋 水が渡る橋）の文と絵を改訂し、日本語・英語併記の「国宝 通潤橋 命の水道橋」（左は表紙）として発行しました。絵本の監修を会員の尾上一哉氏、田上彰氏、下田氏が担当しています。（広報部）

国宝 通潤橋 命の水道橋
画／國寶 賀茂、編集／大林美穂、監修／尾上一哉、田上彰、下田美鈴 発行／株式会社やまと 2,800円+税
道の駅通潤橋、通潤橋ミエルテラス（通潤橋前売店）で販売

大坪橋が山鹿市の文化財に

河村 修【熊本】 大坪橋が山鹿市市文化財（建造物）に指定されました。同橋が末永く保存されるよう地元の3団体（山鹿市立博物館友の会・山鹿市文化財保護協会・山鹿文化財を守る会）が連名で一昨年、市教育長に要望書を提出したところ、



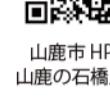
山鹿市立博物館前に保存されている「大坪橋」

写真提供／中村まさあき

昨年6月に正式に指定が決まり、今年2月には文化財指定記念「山鹿の石橋展」が市内で開催されました。

同橋は幕末、水利に乏しく干害に苦しむ農民のために橋から約4km離れた寺島地区から岩野川の水を引こうと、熊本藩山鹿手永の惣庄屋・福田春蔵翁が中心となり、困難を克服して吉田川に架設された水路橋です。河川改修に伴い、1983（昭和58）年に市立博物館前の市有地に移設復元されました。その移設の経緯は「日本のいしばしアーカイブ上」（12・13号）で紹介されています。

江戸期創建の石造水路橋としては国宝・通潤橋（山都町）に次ぐ規模。鞘石垣の勾配が描く曲線が調和した素晴らしい橋です。



山鹿市 HP
山鹿の石橋展

石橋6橋を熊本県指定文化財に

熊本県文化財保護審議会（山尾敏孝会長）は今年2月、熊本藩時代の旧中山手永に残る現在の下益城郡美里町の馬門橋や二俣渡（わたし）、宇城市の薩摩渡など石橋6橋と石碑2基を県の重要文化財に指定するよう答申しました。石橋は古文書にも記載され、当時の交通インフラとして整備されたことが分かる点などが評価されました。（広報部）



備前石工の茂吉と勘五郎が架けた馬門橋（美里町、1828年）写真提供／中村まさあき



石橋広場（国道386号・夜明三差路そば）

写真提供／中村まさあき

旧大肥橋そばに「石橋広場」完成

2017年の豪雨から3年後、惜しまれながら撤去された大分県日田市夜明の大肥橋（おおひばし、1899年架設）。その架設されていた場所近くに同橋の要石などの石材を使用した「石橋広場」が整備されました。広場には、かつての橋の写真や「夜明史談会」による説明文が掲示され、交通インフラとして地域を支えた同橋の記録が保存されています。（広報部）

立門橋が2年ぶりに復旧

熊本県菊池市の立門橋（たてかどばし、1860年架設、県指定文化財）が2年ぶりに元の姿に戻りました。2021年8月の雨で壁石に続く西岸下流側の石垣が崩落。復旧工事は昨年11月に完了しました。

施工した「葵文化」の荒木祐一郎社長（会員）は、「崩落した石材のうち約3分の1を新材に置き換え、使用可能な石材は奥行きが短かったため石垣の裏に大きな押



復旧した立門橋。写真左側が西岸

写真提供／中村まさあき

さえ石を配し、表裏の2石をアンカーピンで串団子状に連結した『締め石』を適所に配置して強度を高めました」と説明。

工事中、西岸の水路に架かる持送り式の桁橋の路面下から創建時のピンク色をした凝灰岩の橋桁を確認しましたが、原状（げんじょう）復旧の原則により路面はコンクリートで舗装されました。（広報部）



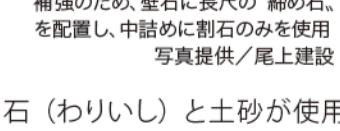
下町橋の修復工事が進行中

2020年7月の豪雨から3年が過ぎた昨年9月、熊本県球磨郡湯前町で都川（球磨川水系）に架かる下町橋（1906年架設、町指定文化財）の修復が始まりました。壁石に接合の緩みが見られたため、輪石を残して一度解体し、再度積み直す作業が進められています。

現場で石工頭を務める「尾上建設」の荒木大人氏（会員）に聞くと、解体で、壁石の奥行きが約50cmと短いことや、



壁石が解体された状態の下町橋



補強のため、壁石に長尺の『締め石』を配置し、中詰めに割石のみを使用

写真提供／尾上建設

中詰めに割石（わりいし）と土砂が使用されていたことが判明。今後の川の増水を想定した補強が必要と判断されました。壁石には元の石材の面と同形に加工した奥に長い新材を『締め石』として適所に配置し、中詰めには割石のみを使用して壁石への土圧の減少を図るなどの対策を講じたといいます。修復工事完了は今年5月末の予定です。（広報部）